

市民活動に関する意識調査結果報告書

1 調査の趣旨

市民や事業者、NPO(市民公益活動団体)などの協働のまちづくりの具体化を図るために市民活動に関する意識調査を実施し、基礎的な資料とする。

2 調査対象

ネットモニター99人(男性50人、女性49人)

3 調査期間

平成17年2月2日～2月9日

4 調査結果

調査対象数 ネットモニター100(人)

回答 99(人)

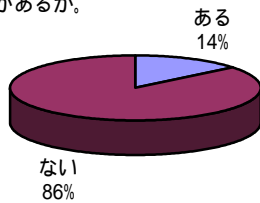
回答率 99%

5 調査内容

(1) 市民活動に対する参加意識

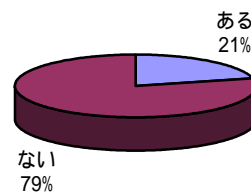
市が実施する事業にボランティアスタッフなどとして関わった経験がないが86%、市の事業以外についても参加したことがないが79%で、約8割の人が参加したことがないとしている。理由として「どこでどのような活動をしているのかわからない」(48%)、「時間がない」(26%)、「一緒に活動する仲間がいない」(16%)が主なものである。
 参加したことがある人のきっかけとして、「社会の役に立ちたかった」(16人)、「活動内容に興味があった」(15人)、「自分の能力を生かせると思った」(9人)であった。

市が実施する事業にボランティアスタッフとして関わった経験があるか。



N=99

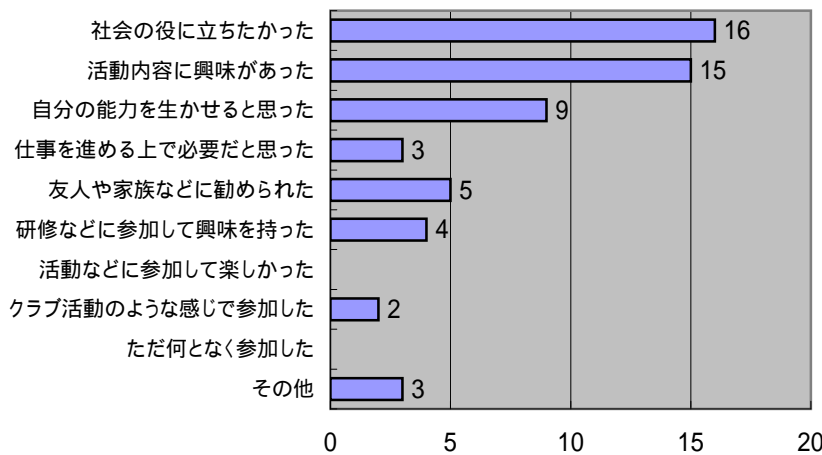
市が実施した事業以外にボランティアスタッフとして関わった経験があるか。



N=99

活動に参加したきっかけは、どのようなことですか

N=57

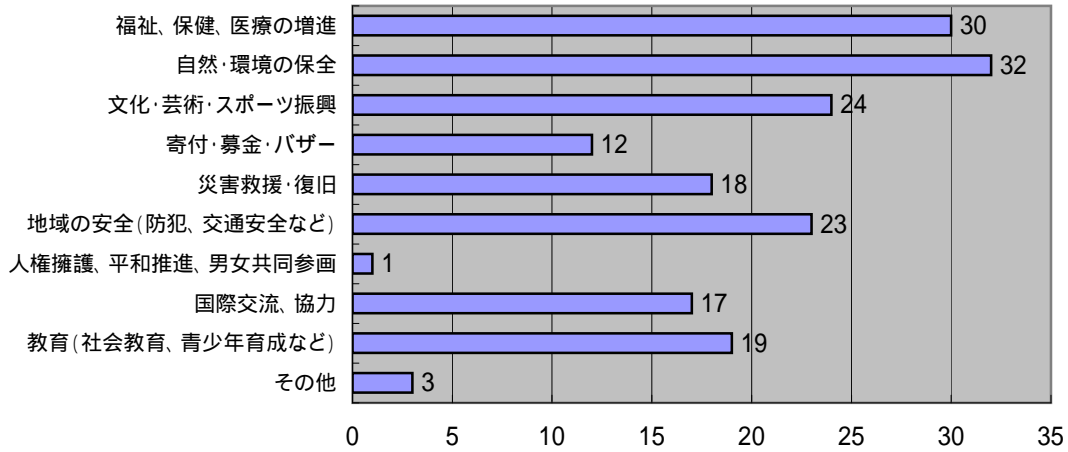


また、参加したことがない人に「今後、活動に参加してみたいと思うか」という問いに対して、「ぜひ、参加したい」(10%)、「機会があれば参加したい」(68%)と合わせて78%の人が回答しており、参加したことがないにも関わらず、市民の参加意識の高さが表れている。

どのような活動分野に参加してみたいかということについては、その主なものは自然・環境の保全関係(18%)、福祉・保健関係(17%)、文化・芸術・スポーツ振興関係(14%)、防犯関係(13%)などであり、さまざまな分野での参加意欲が見られる。

どのような分野の活動に参加したいか

N=179

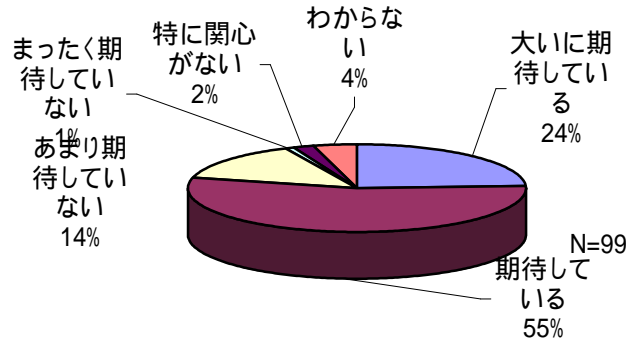
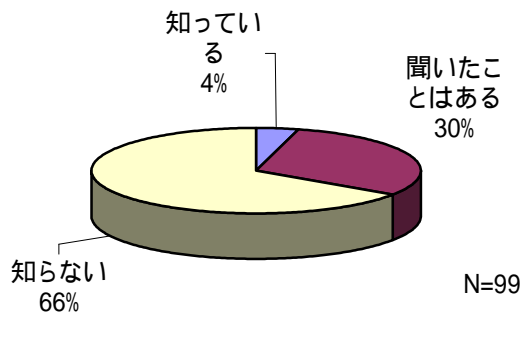


(2) NPOに対する認識及び評価

「NPO」という言葉について34%の人が「聞いたことはある」「知っている」と回答しており、残りの66%の人が「知らない」と回答しており、認識度の低さが表れている。
 また、「知っている・聞いたことがある」という人のNPOに対するイメージで主なものは「社会貢献活動推進の担い手」(24%)、「多様な市民社会構築の担い手」(20%)、「ボランティア活動の受入先」(21%)、「行政に代わる公益的なサービスの提供者」(11%)といったプラスイメージが「よくわからない団体」(5%)、「興味のあることをしている団体」(3.6%)といったマイナスイメージを上回っており、NPOの活動が盛んになることについては、79%の人が期待していると回答しており、大いに期待が寄せられている。

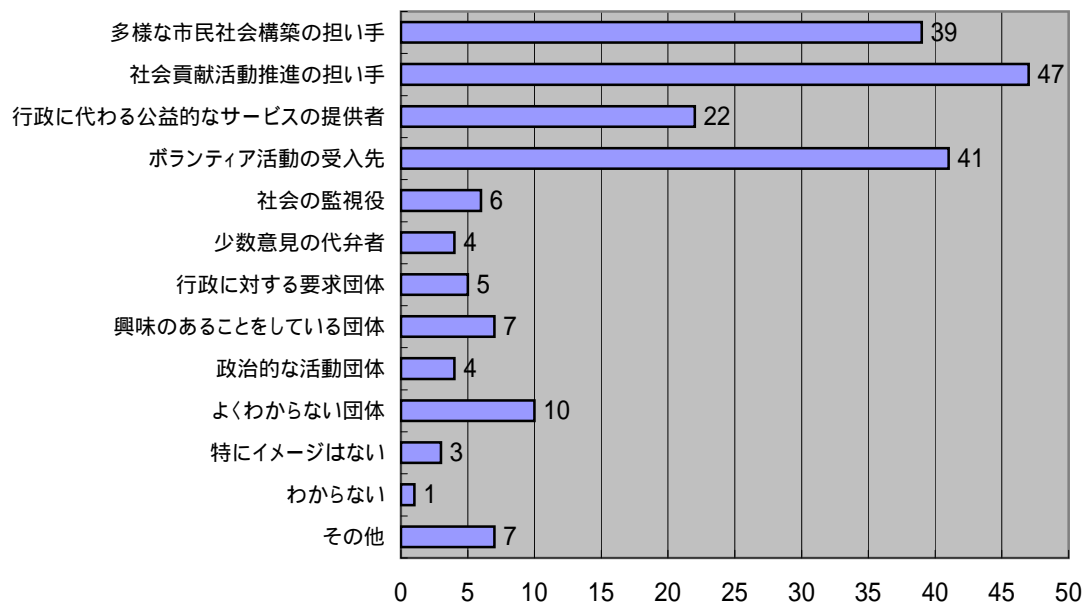
「NPO」という言葉について

「NPO」の活動が盛んになることについて



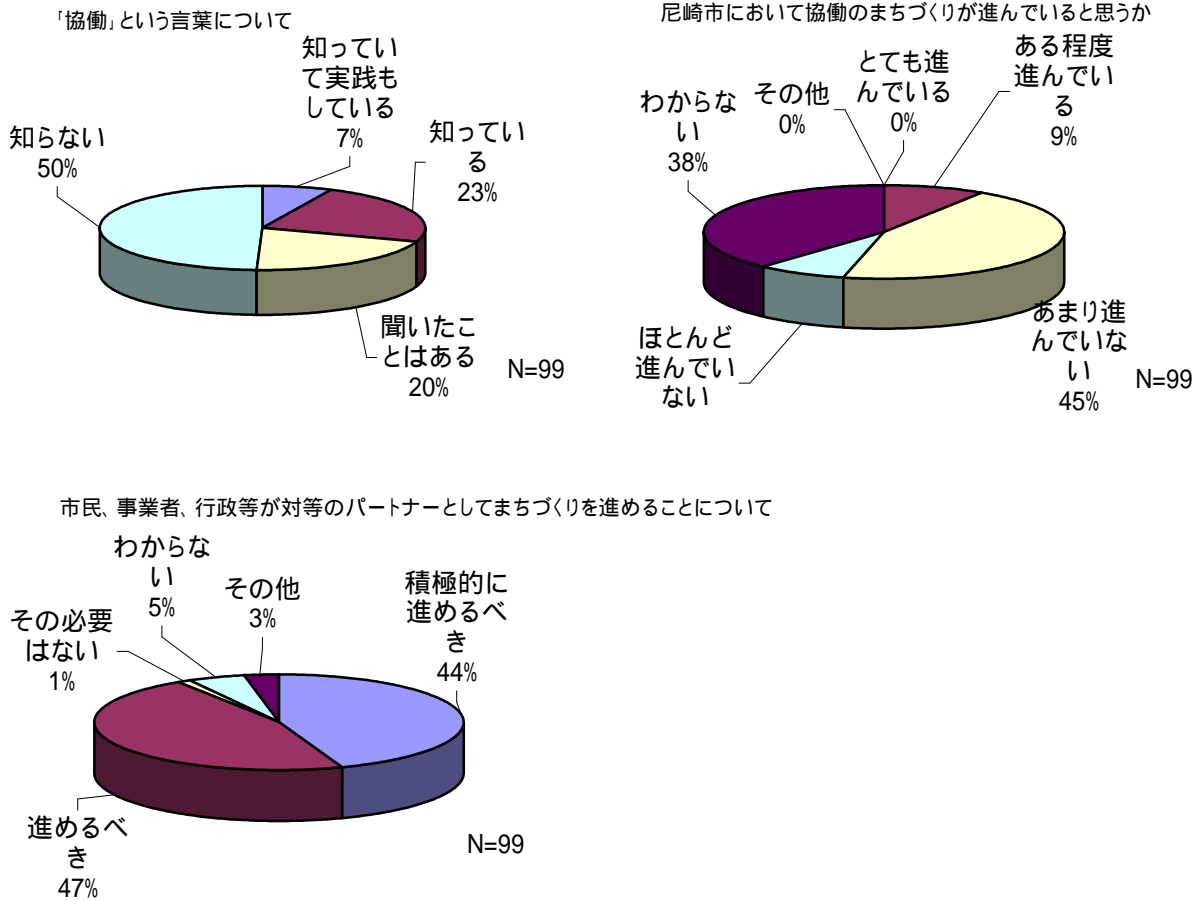
「NPO」に対してどのようなイメージを持っているか

N=196



(3) 協働に対する認識及び評価

「協働」という言葉については、「知っている」、「聞いたことはある」を合わせると50%であり、尼崎市において「協働のまちづくり」が進んでいるかという問いに対しては「あまり進んでいない」「ほとんど進んでいない」を合わせると53%、「わからない」と回答した人は38%である。
 しかしながら、市民、事業者、行政等が対等のパートナーとしてまちづくりを進めることについては、91%の人が「進めるべき」と回答しており、協働でまちづくりを進めることは必要であると認識している。



(4) その他

「その他の意見として「協働のまちづくりや市民活動にどのようなものがあるか知らない」という意見が多く見られ、また、協働の仕組みや活動内容等の情報発信やPR、啓発が必要であるという意見もあった。
 また、多くの人が参加できる組織や場の提供、市民が積極的に活動出来る指針が欲しいという意見も見られた。
 さらに市民活動と行政がそれぞれ出来ないことを補い合いながら「対等のパートナー」として具体的な役割分担を明確にする必要があるといった意見もあった。